

里道を辿り梅林を楽しむ☆2つの小さな旅 弓立山

実施日 2013年3月2日(土)
天候 晴れ
リーダー 遠井 謙策
参加者 若村貴世子、若村勝昭、一柳昭、
島本陳重、鈴木恵美子、石附智
江、遠井謙策、伊藤久雄、石原
勝正、長濱隆行、長濱あゆみ、
小名秀鋭、矢作多恵子 計13名
費用 1,580円(池袋起算)
タイム 明覚駅(8:50)八幡神社(9:35)男鹿
岩(10:10・10:22)弓立山(10:30)
いこいの里大附(11:25・11:55
昼食)大クス(12:15)越生梅林(1
3:00)越生駅付近(解散14:00)

PM2.5が心配され、どこかの金(きむ)坊ちゃんが物騒なものを打ち上げたり、はたまた領土を巡るせめぎ合いやら、今アジア情勢がきな臭い。一方、世界の観光地からは悲しいニュースが続いたり、不安定な為替の上下動も気に掛る。地球規模での動静から目を逸らす訳には行かない時代である。

さて「こぶし会」。寒かった今年の冬も、前日にようやく春一番が吹き「弥生」の声を聞くと、いくら冷たい風が吹こうと気持ちはどうしても弾んでくる。

久々に実施した☆2つの山行には13名の会員の参加があった。



集合地点の「明覚(みょうかく)駅」はログハウス風で、何となくメルヘンチックな気持ちになり、うきうきと歩き始める。

しばらく「木のまち」ながら車道を行く。児童がTシャツ姿で元気良く遊ぶ保育園の横にある登山口より山に入る。

のっけからなかなかの急登で、汗ばんでくる。単調な杉の植林が続くが、W氏の軽妙なJokeが皆の心を和ませてくれて嬉しい。



やがてそそり立つ巨岩が目の前に現れ

る。男鹿岩(おじかいわ)だ。よじ登ると比企丘陵が一望のもと。少し偉くなったような優越感を覚える。

日溜りの中、コーヒをバックの集合写真を取り山頂へ向う。間もなく着いた山頂には三角点と立派な木柱。でも南面にはちらちらと車の影が・・・!? 「何だよう」の声。又直下の楽しみにしていたハンググライダーも風のせいかな人影無し。気分がしぼんでくる。



気を取り直しここまで来ている舗装道路を下っていく。いこいの里大附の休憩所で昼食を取り、噂の「大クス(楠)」を目指す。折りからの風にスギ花粉ぶんぶん舞う林道をアラブゲリラ宜しく覆面に身を固め歩くこと20分。古民家の裏に



鎮座まします「上谷(かみや)つ)の大クス」を目の当りにした時、驚嘆のため息が・・・。屋久島の縄文杉すらひ

れ伏すであろう圧倒的存在感。今日の山行これに極まれの声しきり。

思わぬ興奮冷めやらぬまま越生の梅林へ向う。途中の大豆工房で美味しい豆腐をつまみ梅林へ着く。開花は3~4分咲き

といったところ。これからという初々しい梅の花や蕾を楽しみ、長い車道を歩き今日のゴールたる越生駅へ向った。近くの蕎麦屋での反省会は、当日が記念すべき「誕生日」という前出のW氏を祝う会と化し大盛り上がりを見せ、いつしか春の大宴会はお開きとなった。

☆のバリエーションを増やして参加者の裾野を広げたいという目的の本山行はいまひとつの結果だったが、偶にはこんなゆったり山行も良いもんだねの言葉も頂いた。今後の課題として検討を継続したい。



(記・遠井 謙策)
(写真提供・伊藤 久雄)

